

6
サムエル記
聖徒伝 84

「高慢は 偶像礼拝の悪」

I サムエル記13～15章 サウルの背き・王権の剥奪

アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. 迫る危機とサウルの罪 13章
- II. サウル王と勇士ヨナタン 14章
- III. サウルの背きと王権の剥奪 15章
- III. まとめと適用
 - 主に聴き従う最高のささげ物



【無垢の時代】
天地創造

【良心の時代】
墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】
バベルの塔事件

【約束の時代】
アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】
イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】
聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】
千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

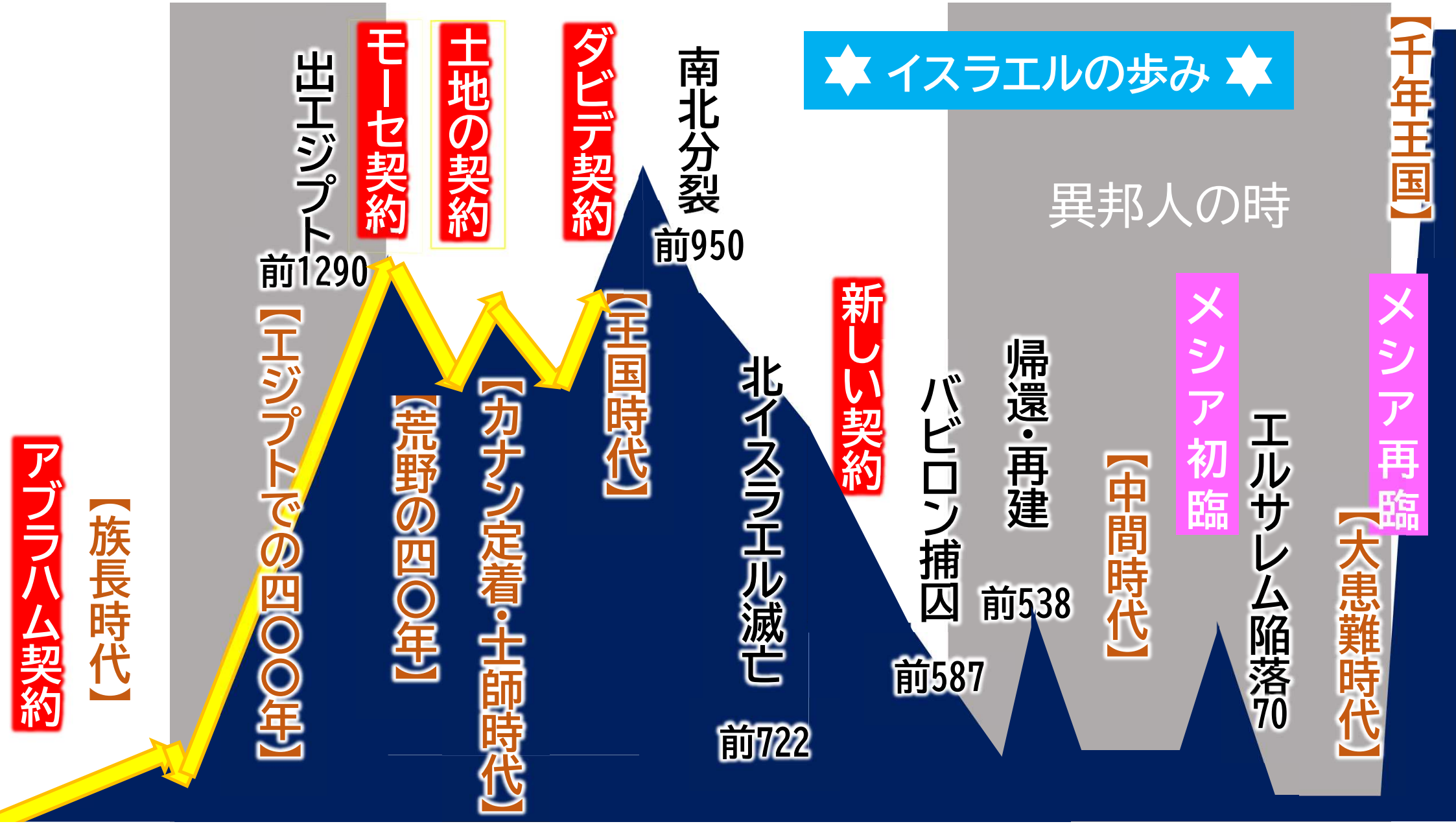
神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

★ イスラエルの歩み ★



サムエル記 第一

士師時代

サムエル

1:1~2:11	サムエルの誕生
2:12~3:21	サムエルの召命
4:1~7:17	奪われた契約の箱
8:1~9:27	後継者不在 王を求める民

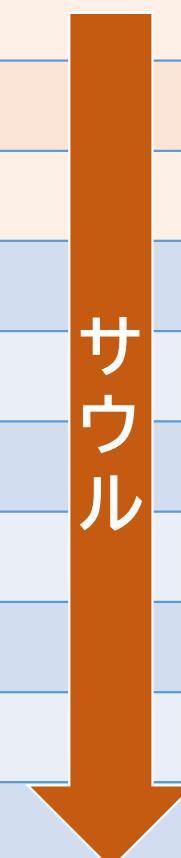
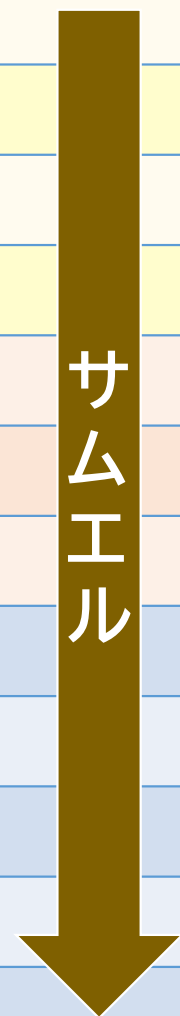
王政時代

サウル

10:11~11:15	油注ぎ
12:1~25	士師サムエルの民への告別
13:1~15:35	王が重ねた神への背き

ダビデ

16:1~13	油注ぎ
16:14~23	王宮での奉仕
17:1~58	ゴリヤテとの戦い
18:1~30	サウルの娘ミカルとの結婚
19:1~26:25	荒野の逃亡の日々
27:1~30:31	ペリシテ人の地で
31:1~13	サウルの死



【サウルの油注ぎ】 I サムエル8～10章

- 背信と混沌の士師の時代、最後に立てられたサムエルは、イスラエルを民族的悔い改めに導き、40年間、裁き治めた。
- イスラエルは、真の王である神を退け、自分たちの上に立つ人間の王を願った。神は、許容的御心によって、願いを聞かれた。
- 神は、ベニヤミン族のサウルを王に選ばれた。サウルは、サムエルに油注がれ、王となった。
- 「油注ぎ(メシアツハ)」が、メシアの語源。



【サウル王の即位】 I サムエル11～12章

- アンモン人の脅威にイスラエルがおののいたとき、サウルに神の霊が降った。
- 圧倒的な勝利を収めたサウルは、イスラエルの総意を得て、正式に王に即位した。
- ギルガルは、ヨシュア率いるイスラエルが最初に足を踏み入れた約束の地の宿営地。

歴史的な地でサウル王が正式に即位した!!





I. 迫る危機とサウルの罪

I サムエル記13章

ギルガルに下る道

【主が認めたサウルの統治期間】 I サムエル13:1

サウルは、ある年齢で王となり、二年間だけイスラエルを治めた。

* 底本で年代が定まっておらず、訳は様々。

口語訳 …30歳で王、2年間。

新改訳3版 …30歳で王。12年間。

新共同訳 …1年で全体の王となり、2年たったとき。

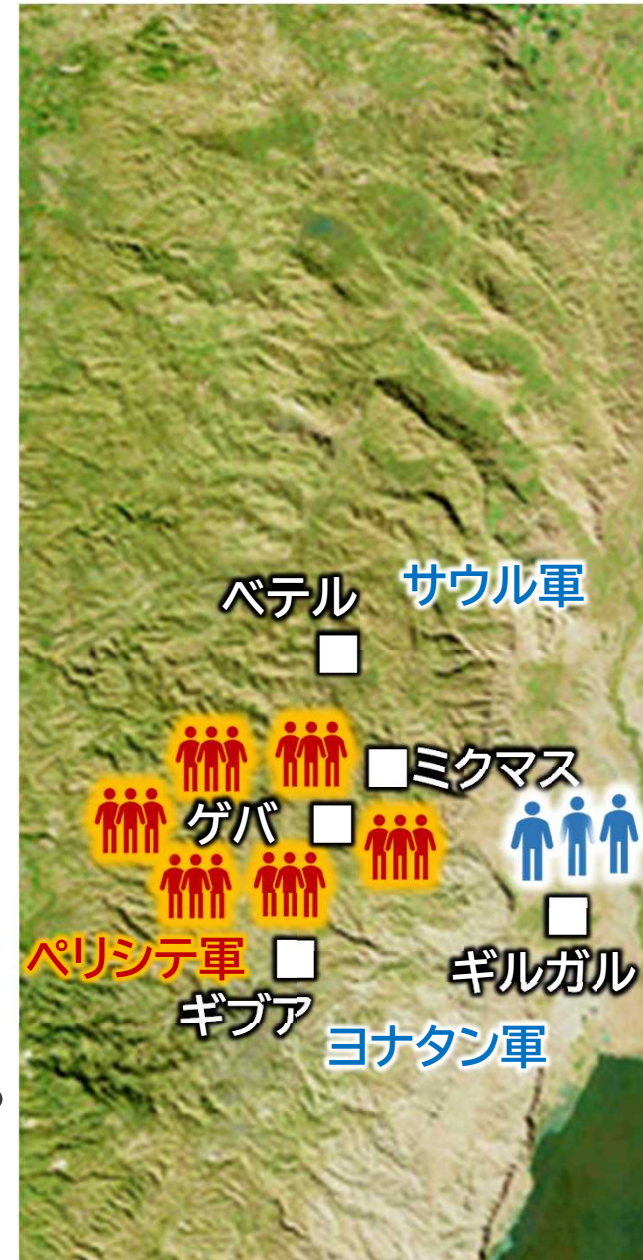
「使13:21 …神は彼らにベニヤミン族の人、キシユの子サウルを四十年間与えられました。」

■ サウルは、40年間、王を務めたが、「神が認めたのは、最初の2年間だけ」ということと思われる。



【ペリシテ軍の脅威】 I サムエル13:2~6

- サウルの息子ヨナタンに、ゲバの守備隊長を殺されたペリシテ人は、イスラエルに報復を開始。
- ギルガルに結集し、残ったイスラエル兵は3千人。ベテル、ミクマスの側のサウル軍の元に2千人、ギブアのヨナタン軍には千人の兵が分かれた。
- 一方のペリシテ軍は、戦車3万。騎兵6千。歩兵は、海辺の砂のように数え切れなかった。
- イスラエルの兵の一部は、ヨルダン川東岸へ逃亡。多くは、洞穴や岩間、地下室、水溜に隠れた。



【サウル王の犯した罪】 I サムエル13:7~10

■ サウル自身は例祭のためギルガルに行き、待った。

しかし、**7日目**になってもサムエルは現れない。

(即位の時も、サムエルは7日待つよう命じた。)

震える兵たちが、離れて散り始めたのを見て、

サウルは、**全焼のささげ物を勝手に行った。**

■ その時、サムエルが来てサウルを咎めた。

■ 主を信頼できず、**律法を破った**サウル王は、

兵とサムエルを責め、自分を正当化した。

「今、ペリシテ人がギルガルにいる私に向かって下って来ようとしているのに、まだ私は【主】に嘆願していませんと考え、あえて、全焼のささげ物を献げたのです。」



【サウル王の系譜の断絶】 I サムエル13:13~14

サムエルはサウルに言った。「愚かなことをしたものだ。あなたは、あなたの神、【主】が命じた命令を守らなかった。【主】は今、イスラエルにあなたの王国を永遠に確立されたであろうに。

しかし、今や、あなたの王国は立たない。【主】はご自分の心にかなう人を求め、【主】はその人をご自分の民の君主に任命しておられる。【主】があなたに命じられたことを、あなたが守らなかったからだ。」

- 祭司でないのに、ささげ物を行った罪により、サウルからの系譜は断たれ、王権は一代限りに。
➡ 主の御心に叶う真実の王が、ダビデ。



【略奪隊】 I サムエル13:15~18

■残った600人足らずのサウル軍は、ゲバに駐留。ペリシテ人はミクマスに陣取った。

■ペリシテ人の陣営から、三つの組に分かれて略奪隊が出てきた。

➡大軍に必要な物資をイスラエルから奪い取って調達することが目的か？

■勝敗はすでに決したも同然と、我が物顔に振る舞っているペリシテ軍。

➡サウル軍を相手にもしていない!!

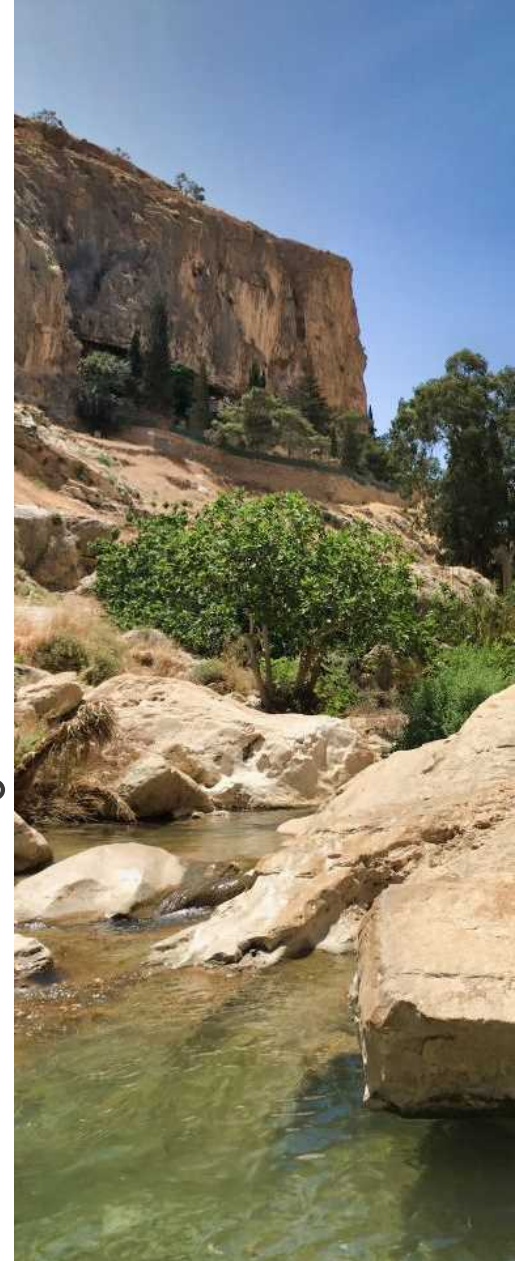


【武器もないイスラエル】 I サムエル13:19

- イスラエルに鍛冶屋がなく、
農具を研ぐにも、ペリシテに依存。 ➡ 経済的戦略？
➡ ペリシテの農具の補修費は、
1ピム(2/3シエケル) = 銀7.6g(500円玉くらい)
- 優れた技術力を安価で提供するペリシテ。
➡ イスラエルの鍛冶屋は、競争に負け、壊滅状態。
- 武器を持っていたのは、サウルとヨナタンだけだった。
➡ ペリシテの圧力に屈し、武装解除させられていた？

13:23 ペリシテ人の先陣はミクマスの渡りに出た。

- ペリシテ軍が、いよいよサウルに迫ってきた。





Ⅱ. サウル王と勇士ヨナタン

I サムエル記14章

エフライムの山地

【立ち上がるヨナタン】 I サムエル14:1

そのようなある日*、サウルの息子ヨナタンは、道具持ちの若者に言った。「さあ、この向こう側のペリシテ人の先陣の方へ行こう。」しかし、ヨナタンは父にそのことを知らせなかった。*

* 圧迫された状況が続いていた？

■ 行動を起こすヨナタン。ゲバの守備隊長を殺し、この戦いの火蓋を切ったのも彼。

* ヨナタンとサウルの間に溝があった？

➡ 父サウルは、信仰深く勇壮なヨナタンをむしろ疎ましく思っていた？



【サウルと祭司アヒヤ】 I サムエル14:2~3

■ ギブアの外れミクロンのザクロ畑に陣取ったサウル。

兵はわずか600人。祭司アヒヤが一緒だった。

アヒヤは、エポデを身に着けていた。アヒヤはアヒトブの子で、アヒトブはイ・カボデ*の兄弟、イ・カボデはピネハスの子、ピネハスは、シロで【主】の祭司であったエリの子である。兵たちは、ヨナタンが出て行ったことを知らなかった。

■ 祭司アヒヤのルーツは、系譜を断たれたエリ。

➡アヒトブ …契約の箱がペリシテに奪われた時に生まれたイ・カボデ(栄光がない)*の兄弟。

➡ささげ物を奪い取っていたピネハス。

➡神に裁かれて死んだその父エリ。



系譜を断たれた
王と祭司



【山峡】 I サムエル14:4~5
ヨナタンがペリシテ人の先陣の側に越えて行こうとしていた山峡には、手前側にも、向こう側にも、切り立った岩があって、一方の側の名はボツエツ、もう一方の側の名はセンネといった。一方の岩は北側、ミクマスの側にあり、もう一方の岩は南側、ゲバの側にそそり立っていた。

【二人の信仰者】 I サムエル14:6~7

ヨナタンは道具持ちの若者に言った。
「さあ、この無割礼の者ども*の先陣のところへ渡って行こう。おそらく、【主】がわれわれに味方してくださるだろう。多くの人によっても、少しの人によっても、【主】がお救いになるのを妨げるものは何もない。」

道具持ち*は言った。「何でも、お心のままになさってください。さあ、お進みください。私も一緒に参ります。お心のままに。」

*主を恐れぬ偶像礼拝の民。

*最も信頼された主人の側近。➡彼も信仰者。



【ヨナタンの受けたしるし】 I サムエル14:8~11

ヨナタンは言った。「さあ、あの者どものところに渡って行って、われわれの姿を現すのだ。

もし彼らが『おれたちがおまえらのところに行くまで、じっとしている』と言ったら、その場に立ちどまり、彼らのところに上って行かないでいよう。

しかし、もし彼らが『おれたちのところの上って来い』と言ったら、上って行こう。【主】が彼らを、われわれの手に渡されたのだから。これが、われわれへのしるしだ。*」

*ヨナタンは、主に聴き従い、行動していた。



【】 I サムエル14:11～13

二人はペリシテ人の先陣に身を現した。するとペリシテ人が言った。「おい、ヘブル人が、隠れていた穴から出て来るぞ。」先陣の者たちは、ヨナタンと道具持ちに呼びかけて言った。「おれたちのところに上って来い。思い知らせてやる。」

ヨナタンは道具持ちに言った。

「私について上って来なさい。【主】がイスラエルの手に彼らを渡されたのだ。」

ヨナタンは手足を使ってよじ登り、道具持ちも後に続いた。ペリシテ人はヨナタンの前に倒れ、道具持ちがうしろで彼らを打ち殺した。



【ヨナタンの戦いの場】 I サムエル14:14~15
ヨナタンと道具持ちが最初に討ち取ったのは約二十人で、一ツエメドのおおよそ半分の広さ*の場所で行われた。

そして陣営にも野にも、すべての兵のうちに恐れが起こった。先陣の者、略奪隊さえ恐れおののいた。地は震え、非常な恐れとなった。

*約750坪。50m×50m。学校の体育館の3倍くらい。

■ 小さな戦いが、ペリシテ全軍を恐れさせた。

➔ 霊的戦いの本質。小さな者の小さな戦いを主が驚くほど大きく用いてくださる。



伝道の本質

【大混乱の戦いの末に】 I サムエル14:16～23

- 対岸のサウルにもペリシテ軍の大混乱が伝わった。点呼するとヨナタンと道具持ちがいなかった。
- サウルは、神の箱を持ってくるよう命じたが、その間にもペリシテの騒動は大きくなり、ついに、サウルも戦いに出た。
- ペリシテ軍は同士討ちをしていた。ペリシテにしていたヘブル人も、イスラエル側についた。隠れていた者たちも戦いに加わった

14:23 その日、【主】はイスラエルを救われた。そして、戦いはベテ・アベンに移った。



【】 I サムエル14:24～30

■ サウルは、敵に復讐を果たすまで食べるなど命じた。

■ 知らなかったヨナタンは、森のどこにでもあった蜜をとって食べた。咎めた兵士に、ヨナタンは答えた。
「14:29～30 ヨナタンは言った。「父はこの国を悩ませている。ほら、この蜜を少し口にしたので、私の目は輝いている。もしも今日、兵たちが、自分たちが見つけた敵からの分捕り物を十分食べていたなら、今ごろは、もっと多くのペリシテ人を討ち取っていただろうに。」

■ 繰り返し強調されるサウルとヨナタンの断絶!!

➡ サウルは、ヨナタンを意識して命令したのか？



【不条理な命令の結果】 I サムエル14:31～35

- 兵は、ミクマスからアヤロンまで数十キロ追走。
- 疲弊した兵たちは、分捕り物の家畜をその場で屠り、血が付いたまま食べる罪を犯した。
- サウルは、大きな石で臨時の祭壇を設け、そこで屠って食べるよう命じた。

14:35 サウルは【主】のために祭壇を築いた。これは、彼が【主】のために築いた**最初の祭壇**であった。

- サウルの命令で築かれた最初の祭壇がこれ。際立つサウルのおざなりな信仰。



【サウルの宣告】 I サムエル14:36～47

- ペリシテ軍の全滅を告げるサウルに、祭司アヒヤは、神に伺いを立てるよう進言。が、神の答えはなかった。
- 原因となる罪を犯した者の死をサウルは宣告。
- 民と、サウル、ヨナタンが分かれて立った。主は、サウル、ヨナタンを示し、さらにヨナタンを示した。

■ 蜜を食べたヨナタンの死を宣告した王に民は言った。「この大勝利をイスラエルにもたらしたヨナタンが死ななければならないのですか。絶対にそんなことはありません。【主】は生きておられます。」

- ➡ 神が選んだ王の権威は絶大。その命令は絶対。しかし不条理な命令によって王と民の間に亀裂が。



【サウルの戦績】 I サムエル14:47~48

さてサウルは、イスラエルの王権を握ってから、周囲のすべての敵と戦った。モアブ、アンモン人、エドム、ツォバの王たち、ペリシテ人と戦い、どこに行っても彼らを敗走させた。

彼は勇気を奮って、アマレク人を討ち、*
イスラエル人を略奪者の手から救い出した。

■ サウルの王政のふり返り。まとめの記述。

主に従い、主の戦いを戦った。肯定的側面。

* 次章アマレクの戦いが、サウルのピーク。



【サウルの系譜】 I サムエル14:49

さて、サウルの息子は、ヨナタン、イシュウィ、マルキ・シユア、二人の娘の名は、姉が**メラブ**、妹が**ミカル**であった。

サウルの妻の名はアヒノアムで、アヒマアツの娘であった。軍の長の名は**アブネル**で、ネルの子でサウルのおじであった。

キシユはサウルの父であり、アブネルの父ネルは、アビエルの子であった。

サウルの一生の間、ペリシテ人との激しい戦いがあった。サウルは勇気のある者や、力のある者を見つけると、その人たちをみな、召しかかえることにしていた。

※一代限りのサウルの系譜に記されるのは、次の王ダビデに関わりのある者たち。





Ⅲ. サウルの背きと王権の剥奪

I サムエル記15章

ユダの丘陵地帯

【アマレクへの裁きの宣告】 I サムエル15:1~3

サムエルはサウルに言った。「【主】は私を遣わして、あなたに油を注ぎ、主の民イスラエルの王とされた。今、【主】の言われることを聞きなさい。

万軍の【主】はこう言われる。『わたしは、イスラエルがエジプトから上って来る途中で、アマレクがイスラエルに対して行ったことを覚えている。

今、行ってアマレクを討ち、そのすべてのものを聖絶しなさい。容赦してはならない。男も女も、幼子も乳飲み子も、牛も羊も、らくだもろばも殺しなさい。』

- イスラエル最初の戦いがアマレクとの戦い(出17:8)
アマレクは、卑劣にも落伍者を襲った。



【アマレクとの聖絶の戦い】 I サムエル15:4~9

■ 歩兵20万、ユダの兵1万が招集。モーセの舅イテロの血を引くケ二人は、事前の警告を受けてアマレクから離れた。

15:7~9 サウルは、ハビラからエジプトの国境にあるシュルに至るまで、アマレク人を討ち、アマレク人の王アガグを生け捕りにし、その民のすべてを剣の刃で**聖絶**した。

サウルとその兵たちは、アガグと、肥えた羊や牛の最も良いもの、子羊とすべての最も良いものを惜しんで、これらを聖絶しようとしなかった。ただ、つまらない値打ちのないものだけを**聖絶**したのである。

* **聖絶**は、イスラエルを用いた神の厳正な裁き。
従わなければ、イスラエルに災いが及ぶ。



【サムエルに望んだ主の言葉】 I サムエル15:10~15

【主】のことばがサムエルに臨んだ。「わたしはサウルを王に任じたことを悔やむ。彼はわたしに背を向け、わたしのことばを守らなかったからだ。」それでサムエルは怒り、夜通し【主】に向かって叫んだ。

■ サウルはすでに記念碑を立て、即位式をしたギルガルに下っていた。サムエルにサウルは主の従順を強調した。

15:14~15 サムエルは言った。「では、私の耳に入るこの羊の声、私に聞こえる牛の声は、いったい何ですか。」

サウルは答えた。「アマレク人のところから連れて来ました。兵たちは、あなたの神、【主】に、いけにえを献げるために、羊と牛の最も良いものを惜しんだのです。しかし、残りの物は聖絶しました。」



【サウルの罪の宣告】 I サムエル15:16~19

サムエルはサウルに言った。「やめなさい。昨夜、【主】が私に言われたことをあなたに知らせます。」サウルは彼に言った。「お話しください。」

サムエルは言った。「あなたは、自分の目には小さい者であっても、イスラエルの諸部族のかしらではありませんか。【主】があなたに油を注ぎ、イスラエルの王とされたのです。」

【主】はあなたに使命を与えて言われました。『行って、罪人アマレク人を聖絶せよ。彼らを絶滅させるまで戦え。』

なぜ、あなたは【主】の御声に聞き従わず、分捕り物に飛びかかり、【主】の目に悪であることを行っただのですか。」



【言い訳を重ねるサウルへの宣告】 I サムエル15:20～23

サウルはサムエルに答えた。「私は、【主】の御声に聞き従い、【主】が私に授けられた使命の道を進みました。私はアマレク人の王アガグを連れて来て、アマレク人たちは聖絶しました。

兵たちは、ギルガルであなたの神、【主】にいけにえを献げるために、聖絶の物の中の最上のものとして、分捕り物の中から羊と牛を取ったのです。」

サムエルは言った。「【主】は、全焼のささげ物やいけにえを、【主】の御声に聞き従うことほどに喜ばれるだろうか。見よ。聞き従うことは、いけにえにまさり、耳を傾けることは、雄羊の脂肪にまさる。

従わないことは占いの罪、高慢は偶像礼拝の悪。あなたが【主】のことばを退けたので、主もあなたを王位から退けた。」



【覆水盆に返らず】 I サムエル15:24～26

サウルはサムエルに言った。「私は罪を犯しました。兵たちを恐れて、彼らの声に聞き従い、【主】の命令と、あなたのことばに背いたからです。

どうか今、私の罪を見逃してください。そして、私が【主】を礼拝することができるように、一緒に帰ってください。」

サムエルはサウルに言った。「私はあなたと一緒に帰りません。あなたは【主】のことばを退け、【主】があなたをイスラエルの王位から退けられたからです。」

■表面的な悔い改め。何より、悔い改めには、もう遅い。



【失われた王権】 I サムエル15:27~29

サムエルが引き返して行こうとしたとき、サウルが彼の上着の裾をつかんだので、上着は裂けた。

サムエルは彼に言った。「【主】は、今日、あなたからイスラエル王国を引き裂いて、これをあなたよりすぐれた隣人に与えられました。

実に、イスラエルの栄光である方は、偽ることもなく、悔やむこともない。この方は人間ではないので、悔やむことがない。*」

*義なる神の裁きの厳粛さを示すもの。



【アマレク王アガグの死】 I サムエル15:30

サウルは言った。「私は罪を犯しました。しかし、どうか今は、私の民の長老とイスラエルとの前で私を立ててください。どうか一緒に帰ってください。私はあなたの神、【主】を礼拝します。」

サムエルはサウルについて帰り、サウルは【主】を礼拝した。

サムエルは言った。「アマレクの王アガグを、私のところに連れて来なさい。」アガグは、喜び勇んで彼のもとに来た。アガグは「きっと、死の苦しみが去るだろう」と思ったのであった。

サムエルは言った。「おまえの剣が、女たちから子を奪ったように、おまえの母も、女たちのうちで子を奪われた者となる。」こうしてサムエルは、ギルガルにおいて【主】の前で、アガグをずたずたに切った。



【断絶したサウルとサムエル】 I サムエル15:34～35

サムエルはラマへ行き、サウルはサウルのギブアにある自分の家へ上って行った。

サムエルは死ぬ日まで、再びサウルを見ることはなかった。しかしサムエルはサウルのことで悲しんだ。【主】も、サウルをイスラエルの王としたことを悔やまれた。

- サムエルとの断絶は、神との断絶をも示すもの。
- 王権は取り上げられたが、しかし、それでも主の憐れみはサウルに注がれていた。





IV. まとめと適用 主聞き従う最高のささげ物

ヨルダンの山地

【神が「悔いる」「悔いることがない」とは？】

■ヘブル語は、「ノアム」…悔やむ。憐れむ。慰める。ノアは「慰めの子」

➡神はサウルを「憐れんだ」「憐れまない」とも訳すことができる。

■神の二つのご性質の表れ。 ➡「神の愛」と「神の義(正義)」

■悔やまない ➡罪の結果、取られた王権は戻らない。神の厳粛な裁き。

悔やむ ➡それでもなお、サウルを憐れむ、神の愛。

■裁かれ王権を失ったサウルを、なお主は憐れみ、愛されていた。

■主を信じて義とされた者には、蒔いた種の刈り取りはあっても、

その救いが失われることはない。 ➡聖書の信仰義認の大原則。

【信仰義認の原則から、神の義と愛を正しく覚えよう】

■救いは失われることはない。

➔しかし、生涯の間に、自らが蒔いた種の刈り取りはある。

➔しかし、救いの確信は簡単に失われる。

「私は本当に救われているのか。」 たやすく疑念に捕らわれる。

■信仰の後退と、根本的不信仰。その区別は人の目にはつかない。
不信仰の疑念に捕らわれた人を安易に慰められる言葉もない。

■だからこそ**聖化**の過程が求められる。日々、御言葉に聴き、少しずつ成長し、兄弟姉妹との交わりの中で、自分の小さな成長に気づかされる。

■信仰の確信は、**継続した歩み**のただ中で、はじめて実感できるもの。
誰も風をつかまえることはできない。自分から動いて風を感じよう。

【サウルの性質とサウルの過ち】

■ 謙遜を忘れた**気弱さ**は、ひどい**傲慢**に。

不従順に陥った**自信のなさ**は、他者への激しい**嫉妬**に変わった。

➡ 信仰者が後退すれば、以前よりも悪化してしまうことがある。

■ 罪に堕ちいれば、人はどこまでも利己的に、嫉妬深く、残虐になる。

サウルは、信仰の勇士である息子ヨナタンをひどく嫉んでいた？！

➡ ペリシテの脅威を招いたヨナタンを苦々しく思っていた？

➡ 戦いの先陣を切ったヨナタンに、さらに嫉妬と怒りを燃やした？

➡ 「食べるな」という不条理な命令は、ヨナタンを罫にはめるため？！

■ 小心者で利己的。息子さえ犠牲に厭わない自己中心性。強いエゴ。

サウルの負の側面は、ダビデに対して、さらに激しく表れることに！！

【被害者意識の罠から抜け出すために!!】

- 重罪をサムエルに告げられたサウルが、重ねた言い訳。
 - ➡ 主にささげるために惜しんだ。(嘘によるごまかしを神に!!)
 - ➡ 兵たちを恐れた。(権威ある王が、兵たちに責任転嫁!!)
 - ➡ 主の御声に従った。(過ちを認めず、己の正しさを突き通す!!)
- 背後にあって、私たちの悔い改めを拒むのは、強い被害者意識。
すべてを他者や何かのせいにするれば、悔い改めようがない。
- 絶対的な権力を持つ王が、兵たちに責任を押しつける
 - ➡ **最悪の責任転嫁は、権威ある者から、ない者への責任転嫁。**
例) 親が子に。教師が生徒に。牧師が信徒に。指導者が民衆に。

【人の犯す過ちの本質】 I サム15:23

「従わないことは占いの罪、高慢は偶像礼拝の悪。」

■主に従わない ➡主でないものに従っている。 ➡究極が自分。
占いの本質は、自分に都合のよい答えを求めることにある。

■高慢 ➡自分の感情・感覚が一番 ➡自分が神。
究極の偶像礼拝とは、自分の感情・感覚を絶対化すること。

■「自分を信じろ」と叫ばれる現代は、偶像礼拝の究極の世界。
欲望が権利とされ、声の大きい者、力ある者が我を通す。

【信仰者に求められる信仰の本質】 I サム15:22

「見よ。聞き従うことは、いけにえにまさり、耳を傾けることは、雄羊の脂肪にまさる。」

- 主が最も喜ばれるささげ物とは、私たちが主に聴くこと。
聴いた者は、具体的に応答する。聴くことと行動は、不可分。
弱さを言い訳にするのは、ただの不信仰にすぎない。
「私にはできない。神にはできる」それが信仰。
- この時代の使命は明確。福音を告げ、聖書を解き明かして行こう。
使命に歩む者を、主は必ず助けられる。

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

わたしに、いったい、なにができるでしょうか。

しかし、主よ。あなたに できないことはありません。

この救(すく)いの福音(ふくいん)を告(つ)げ、あなたのみことばを、

よろこんで 人々に ときあかしていくことができますように。

主が たすけてくださいます。

平安(へいあん)のうちに ここから 遣(つか)わしてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」